

SDGs達成に向けた具体的な取組（要件2）

[illegible]

カテ ゴリ	非該 当	チェック項目	取組 レベル	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、 併せて記載してください。)	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																					
18	☐	【環境マネジメントシステム】 ・ISO14001、エコアクション21または同等の環境マネジメント規格を取得している	チャレンジ	ISO14001は平成19年に取得登録（2008年版）、平成29年からはISO9001と統合（2015年版）して取得登録している。2026年7月更新審査予定。			3.9			6	7					12	13.3	14	15		
19	☐	【環境情報開示】 ・環境の取り組みに関する情報を正しく開示している	チャレンジ	HPでISO14001取得を公開、会社案内にもマークを掲載。社員全員が環境方針（A7サイズ）を携帯し、朝礼で読合わせ資料の一つになっている。												12.6					
20	☐	【再生可能エネルギーの利用】 ・再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる	チャレンジ	社内では設置は無いが、平成29年1月から高圧電力をエネット電気に変え、2022年7月1日～実質再生可能エネルギー100%のエネルギーに変更した。太陽光発電を2024年5月から開始。自社工場にて利用をして、夏は発電量が月20,000kwhになる。							7.2						13				
21	☐	【天然資源の持続的利用】 ・天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる	チャレンジ	金属スクラップ分別による再利用（処理・運搬の許可業者へ）。出荷時の隙間梱包材に古紙を利用（市販ビニール隙間梱包材は購入しない）。買入品の隙間梱包材を再利用。												12.2	13	14	15		
22	☐	【汚職・贈収賄防止】 ・汚職・贈収賄を禁止する方針を掲げ、社員に周知している	基本	就業規則の服務規程で「誠実に職務を遂行」を規程、制裁の章で「不正行為」に該当すると懲戒解雇などを規程。就業規則は社員全員に配布、食堂にも置き社内浸透を図っている。																16 16.5	
23	☐	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している	基本	当社は自社製品が無く、全て受注生産である。営業には取締役から不正競争行為に関与しない意向を伝えている。社内情報に関する守秘は全員が誓約書を提出。																16	
24	☐	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる	基本	特許が有効な間は、長野市の綿貫特許事務所に依頼していた。								8.2 8.3	9								
25	☐	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している	基本	個人情報の守秘については、入社の都度説明し、「守秘に関する誓約書」に各自署名をしている。また新たに「マイナンバーに対する取り組み」を平成27年に作成、社内に周知。その後は入社の都度、個人情報の説明時、特出して説明をしている。																16	
26	☐	【紛争鉱物】 ・紛争鉱物を取り扱っていないことを確認している	チャレンジ	取引企業間にて「紛争鉱物調査報告書」を取り交わし、確認している。																16	
27	☐	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応（ハラスメント・汚職・贈収賄防止）について認識を共有し、共に取り組んでいる	チャレンジ	仕入れから出荷まで、各部署の担当者が取引先と対応している中で、必要に応じて確認活動を行なっている。EcoVadis社のCSR質問などの場合は、全部署で対応する。					5			8		10		12	13	14	15	16	17
28	☐	【製品・サービスの安全性】 ・製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している	基本	当社には自社製品は無く、全て規格の定まった受注部品である。その設計・顧客の要望通りに作成することが、製品の安全性の確保となる。規格通りの納品は基本であり、品質管理対策は常に実施している。			3.9									12.4					
29	☐	【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している	基本	異常処置手順に沿った生産を基本とし、生産工程での小さなトラブルも見逃さない仕組みを作っている。同じトラブルを起こさないためのヒヤリ情報書を回覧・対策して事前にトラブルを防ぐ処置も実施。不良・クレーム対応削減の為、品質を保証する仕組みを常に見直している。									9								
30	☐	【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる	チャレンジ	騒音を抑えるため必要最低限の材厚、バレル洗浄・トリクレン洗浄をしない工程、機械油を少なくするための油の選び方など、環境影響を減らす努力をしている。						6						12	13	14	15		
31	☐	【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる	チャレンジ	絶対に兵器に関連するものは作らない。プレス加工品の大きな利点は大量生産が可能なことである。技術の向上によって今までできなかったプレス加工品ができれば、量産が可能になり単価が安くなり、多くの人が手にできるようになる。技術の向上が社会問題の解決につながると考えている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

	非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																					
32	☐	【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	基本	年2回近隣住宅へ伺い、意見要望を聴いている。中学高校の企業体験の受入れや小学生の工場見学を実施。学校の意見要望を取入れる。町の商工会や中之条親工会にも所属し、他社に寄せられた意見を共有対応している。				4					9		11	12		14	15		17
33	☐	【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	チャレンジ	地域消防への寄付、地域高校の文化祭・発表会への寄付。ニューリーダー研究会で地域子供たちとの実験学習会、小学校社会科授業で「会社についてのお話」実施。全社員で社内草取り草刈りの時、周りの歩道・土手なども一緒に実施。				4							11			14	15		17
34	☐	【地域資源】 ・地域資源を積極的に利用（地消地産、地産外商）している	チャレンジ	できるだけ町内を利用している。外注、購入品、車関係(購入・修理・点検)、建築(建屋、配管、ダクト、電気など)、部署飲み会、新人歓迎会も。								8	9		11	12	13				
35	☐	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有している	基本	経営理念は全員がA7サイズのカードで持っている。毎年、今期の方針・行動指針・目標を社長が出し、各部署に配布。お中元お歳暮を社員全員で分配する時に確認の為、読んでいる。								8	9								17
36	☐	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している	基本	ISO14001で、環境法令の遵守は各部署で情報を新たに取り入れ実施。ISO審査会社からの定期配信でも新たな法令情報を得ている。労働関係は労務士が月1回来社、必要な法令順守は社内掲示、朝礼で説明、新人教育も実施した。																16	
37	☐	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当、専門部署などの体制を整備している	基本	CSRは総務課長、ISOは品質管理課長が管理し対応、実施している。社長・常務・課長8人で経営会議を定期定期に実施、全社で行う体制になっている。																16	
38	☐	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー（※）との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している（※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体）	基本	取引先企業、近隣住民、学校、金融官公などと適宜対話し、意見要望を聞くことで自社の影響を把握、対応している。社長が町労務管理協議会の会長をしており、常に町との協力体制をとっている。																16	17
39	☐	【リスクマネジメント】 ・リスクを特定、評価し、マネジメントするプロセスを整備している	チャレンジ	ISOにより品質・環境のリスクを確認、事前対策として様々な手順書・要領書を作成、各部署にて保管。新たなリスクは4M変更・ヒヤリ情報所にて事前に対策、手順化していく流れができています。																16	
40	☐	【社会的責任】 ・CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）の考えに基づき企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対して責任を持った対応に取り組んでいる	チャレンジ	ISOのEMSにて、経営管理プロセスと支援業務プロセスにおいて企業の社会的責任(CSR)を果たすよう決め、取り組んでいる。また、目的の一つに「地域に迷惑をかけない」ことを挙げている。																16	
41	☐	【事業継続】 ・事故や災害などの発生における事業継続計画を立案している	チャレンジ	ISOのEMSにて、緊急事態への準備及び対応を決めている。模擬訓練を毎年10月に行っている。危機管理対応リストが作成されている。									9		11		13 13.1			16	
42	☐	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	チャレンジ	ISOのEMSにて、適用範囲に「事業の継続」のために行うことが挙げられている。PDCAによる改善で事業を継続していく。後継者候補がいる。								8	9								17

上記以外で設定した取組項目

独自に設定したSDGsに資する取組	具体的な取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
技能実習生2名(タイ)2024/10/2入社、プレス技能研修にも日本語学習が必要	毎週(日)日本語教室へ、会費交通費など会社負担				4	5					10							
定年後の再雇用に年齢制限なし	2025年2月77才の方も希望があったので再雇用継続					5												
地域未来牽引企業認定(2020年10月)	事業再構築促進補助金に採択（2022年）																	

【記載留意事項】 ・「取組レベル」の「基本」の項目のすべてに「具体的な取組」が記載されることが登録の必須条件となります。なお、今回の宣言に合わせて、今後、取り組む予定のものにあっても「具体的な取組」を記載いただければ登録が可能です。（今後、取り組むものについては、「具体的な取組」の前に【予定】と記載してください。） ・「非該当」欄については、「チェック項目」が事業形態上（個人事業主等）、該当しない場合にチェックし、その理由を「具体的な取組」欄に記載してください。 ・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載してください。 また、取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等（※）を取得している場合は、その旨を併せて記載してください。 （※職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度、信州福祉事業所認証・評価制度、えるぼし認定、森林認証制度、森林CO2吸収評価認証制度、長野県県産材CO2固定量認証制度、消防団協力事業所表示制度など）
